

# リスクマネジメント～陸上運動系～アンケート結果

～体育経営部作成～

アンケートの結果をもとに、体育主任や体育指導者の実践に活かすことができると考えられる回答をまとめました。

<p>実際の 事故・怪我 事例</p>	<p><b>①ハードル走</b> ハードルや小型ハードルでの怪我事例が一番多く、18校から挙がりました。 ・ハードルに引っ掛かり転倒し、足の擦り傷や手首の骨折。 ・ハードルの高さを調整中、バーが落ちてきて指を挟む。 ・ハードルを跳び越えて着地をした際に足首や足の付け根を痛め、靭帯損傷・捻挫 ☆ハードル間の歩数を合わせようと無理に跳び越えたり、抜き足がハードルに引っ掛かったりすることが原因だと考えられます。</p> <p><b>②走り高跳び</b> ・踏切りがバーの中央より奥となってしまい勢い余ってマット外の着地となった結果、足を骨折。 ・セーフティマットを運搬中、壁とマットに挟まれ後頭部を強打。保健室にて意識が朦朧となり救急搬送された。脳震盪と診断。 ☆安全に着地するよう場の設定をするだけでなく、準備と片付けの際も安全への配慮が必要だと考えられます。</p>
<p>陸上運動で 想定される 事故・怪我 その対策</p>	<p><b>①走り幅跳び</b> ・固い砂場に着地した際に、足首を捻挫したり膝や腰を痛めたりする。 →授業前に砂場をスコップや耕運機でほぐしておく。 →砂を補充し、十分な量を確保する。 →競技用の保護シートを購入し、雨や風による砂の流出を防ぐ。</p> <p><b>②ハードル走</b> ・児童が準備したときハードルの向きが反対に置かれている ・高さ調整がうまくできず、試技中に一方の高さが下がりがなめになる ・ハードルの高さが固定された状態でなく、運搬中に伸びてしまい、指を挟んだりつまずいて転倒したりする。 →準備前と準備後の点検を徹底する。 ・引っ掛かったハードルが隣のレーンに入ってしまう。 ・両隣のレーンにハードルがあると跳べないときに逃げ場がない。 →レーンを空けてハードルを配置する。</p> <p><b>③環境整備</b> ・運動場にあるトラックのロープに足が引っ掛かり転倒する。 →ロープに緩みがないか点検する。 ・運動場で転倒したときに、ポイントや釘に当たり怪我をする。 →使用頻度がないロープ、ポイントは撤去しておく。 →運動会で使用した釘は、打ち込むときと抜いたときの数が一致するようにする。 ・体育館で掲示に使っていた画鋲が外れ、床に落ちてしまう。 →体育館での掲示は画鋲ではなく、養生テープなどを使用する。</p>

